

## 田中每実先生のご退職に寄せて

学校教育センター副センター長  
伊藤 博章（共通教育部）

このたびのご退職、誠にめでたうございます。そして、ご苦勞様でした。長きにわたりセンター長としてご活躍された田中每実先生に、心からの敬意とお祝いを申し上げます。

京都大学高等教育研究開発推進センター長であった田中先生が、武庫川女子大学に着任されたのは2012年4月でした。その後、2015年4月に学校教育センターの初代センター長に就任され、2016年4月から今年度末までの5年間は、教職支援室を組織統合し新しく生まれ変わった学校教育センターのセンター長としてご活躍されました。私が田中先生と一緒に仕事をさせていただいたのは4年間だけでしたので、学校教育センター副センター長であった教育学部の北口勝也先生や教職支援課の山田雅子課長のご協力を得て、学校教育センター立ち上げから現在に至るまでの6年間のご功績を、主に教職支援部門について振り返ってみたいと思います。

2015年4月に発足した学校教育センターは2014年12月に竣工した学校教育館に設置されました。そのセンターの役割（ミッション）は、教職支援室と協働して、全学の教員養成課程をつなぎ、教員養成の効率的で高度な展開を図ることと、卒業生を含めた現職教員対象の研修システム構築でした。そして、教員養成の全学的体制を組織化する必要性を感じておられた先生は、わずか1年で学校教育センターと教職支援室の組織的統合を実現されました。この統合が先生のご最大の功績であり、それが今日の教育・研究体制確立に結実したと言っても過言ではないと思います。

この統合が議論された2015年9月の第1回研修合宿に参加された北口先生は、『通常、大学内の組織の会議は、あらかじめ議題が決められ、それに応じた発言者が順に粛々と報告していくスタイルが多いですが、田中先生はそれをよしとせず、終了予定時刻が気になって「ほどほど」のところで議論を収めるところを、終了予定時刻そのものをなくして議論を尽くさせたのです。参加された会議室での議論はもちろんですが、夕食会場でも、そのあとの二次会でも参加者は田中先生の熱気に乗せられ、それぞれの「想い」を語り合いました。今思うと、後に、新しい教職課程における全学的コントロールセンターとなり、さらには附置研究所の機能を有した学校教育センターを立ち上げるために必要なエネルギーをチャージしておられたように思います。』と振り返っておられます。

このように、1つのことを成し遂げるために、丁寧に手順を踏みながらも、タイミングを逸することがない行動力には、感嘆するばかりです。

また、2019年度の教育職員免許法改正に伴う再課程認定及び教育学部の課程認定、2020年度の食物栄養科学部の課程認定では、田中先生の「大胆さ」と「繊細さ」を兼ね備えたリーダーシップが十分に発揮されたと言えます。旧課程では、学科ごとに必修科目もばらばら、必修単位数もばらばら、さらには教員養成にかける熱意にも温度差が大きい状態でありました。田中先生は学院上層部と協議を行い、学科の特徴から教職課程を必要としない学科で教職課程そのものを廃止したり、全学的に一貫した考え方に基づいた統一カリキュラムを導入したりするなど、まさに全学的な教職課程のコントロールセンターとしての役割を大胆に実行されました。勿論、独断的に進めたのではなく、田中先生が自ら学科長、幹事教授、教職支援委員（当時）、教務委員とその学科の教職課程の方向性を話し合われた結果として実現したものです。つまり、当事者の想いをくみ取る姿勢、繊細な心があったか

からこそ、関係者の理解と協力が得られたと思います。

田中先生は、「教員採用冬の時代」をどう乗り切るかという大命題を念頭に、適材適所に人材を配置し、必要に応じて組織を改編されてきましたが、学生のための環境整備も大切にされてきました。その1つが全学教職の第一歩として取り組まれた採用試験関連資料室・学習室の整備です。これも、センター・関連学科（当時は10学科）・教職支援室が共同で企画し、学院の支持を得て実現したものでした。

また、自分から行動できる学生にしたいという思いと、教員になりたという意識の高い学生をセレクトする観点（教員養成の質保証）から始まった教育実習履修要件規定の厳格な適用、いわゆる「厳格化」の扱いについても、毎年のように議論され、より良い質保証の在り方を常に探っておられたように思います。その結果、公立学校採用試験の合格者数（2020年4月採用の現役延合格者数）が、過去10年の中で最も多い164人という形として実を結んだのではないのでしょうか。

今年度前期、新型コロナウイルスの影響で大学はほぼ封鎖状態であり、まさに想定外の事態が次々に起きました。その一方で、大学の生き残りをかけたサバイバルはこれからもっと激化することが想定され、まだまだ田中先生にご指導いただきたいことが数多くあります。その意味からも、くれぐれもご健康に留意され、田中先生が立ち上げられた新しい学校教育センターが、全学的な組織として質の高い教員養成を実現し、武庫川女子大学がさらに充実発展しますことを祈念して、お祝いの言葉とさせていただきます。